

### 第42回 体育祭

# 2年赤組優勝

9月7日、第42回体育祭が本校グラウンドで開催された。爽やかな秋空に、美術科の生徒が制作した各学年の「吹き流し」がはためく中、松陽ならではのユニークな競技に歓声があがった。体育コースによる「集団行動」の圧巻の演技には会場が感動に包まれた。総合優勝は2年生が輝いた。

## ユニーク競技に 笑顔はじける

開会式終了後、二・三年生文系全員リレーによって競技は幕を開けた。続く男子選抜者による「ウォーターバックリレー」では重さ20

キロのウォーターバックを抱えてがむしゃらに走る姿に会場からは盛んに声援が送られた。その後は、一本の長い棒を10人で持って走り、途中にあるコーンを回って次のチームに繋ぐ「松陽タイフーン」ではそれぞれ

の組が心を一つにして声を掛け合いながら競争する姿がみられた。午前の部を締め括ったのは体育コース生による集団行動「青春の鼓動」だ。体育コース生が整列し、いざ

演技が始まると、会場全体が静寂に包まれ、観客にも緊張感が伝わった。グラウンドの砂に伝わる足音や、手と手が重なる音までも揃い、列を崩さずに人と人の間を綺麗にすり抜け交差した時には、歓声が上がった。午後は、体育部紹介・部

の組が心を一つにして声を掛け合いながら競争する姿がみられた。午前の部を締め括ったのは体育コース生による集団行動「青春の鼓動」だ。体育コース生が整列し、いざ

演技が始まると、会場全体が静寂に包まれ、観客にも緊張感が伝わった。グラウンドの砂に伝わる足音や、手と手が重なる音までも揃い、列を崩さずに人と人の間を綺麗にすり抜け交差した時には、歓声が上がった。午後は、体育部紹介・部



本校の注目の生徒をクローアップする「煌めく(きらくめく)松陽生」。今回は、パリオリンピックでも盛り上がったカヌー競技で激流に挑む、神田橋美貴さんだ。神田橋さんは10月14〜15日に佐賀県で開催された第78回国民スポーツ大会において、15ゲート成年女子カナディアシングルで第8位、25ゲート

## カヌー競技

成年女子カナディアシングルで第7位に輝いた。カヌーはどんな競技ですか

A 吊るされたゲートを通過する技術と所要時間を競う競技です。一艇ずつスタートし、ゲートへの接触・非通過のペナルティポイントと所要時間が決まります。今回は県カヌー協会に所属して



実戦を想定して練習する神田橋さん(湧水町)



計算され順位が決まります。どのように練習をしていますか

Q 競技をするときに気を付けていることは何ですか  
A ゲートの通過が困難なところはイメージトレーニングを行ってから集中して競技に臨みます。  
Q 国体に出場したときはどんな気持ちでしたか  
A ローカルな大会も緊張しますが、国体となると県の代表選手になるので大きなプレッシャーがありました。  
Q 次の目標は何ですか  
A 次の滋賀県国民スポーツ大会への出場を目指しています。

〔内野心春〕



感嘆の声があがった「集団行動」



音美バラエティーリレー

そして音美バラエティーリレー、フォークダンス、など見応えたっぷりの競技が続き、最終種目の学年対抗リレーで盛り上がりは最高潮に。各学年から選ばれた12名の力走に、各組テントから歓声があがり、グラウンドは興奮に包まれた。学年対抗リレーは男女ともに2年生が一位をつかんだ。

今回の体育祭の総合成績は、1位が2年生(赤組)361点、2位が3年生(緑組)で238点、3位が1年生(青組)で214点だった。今年も松陽高校らしい、生徒一人一人の個性が光るすばらしい体育祭となった。

〔立野美吹〕

## 身近に生息 特定外来生物 VOL.2

### 調査報道「指標生物」編

11月22日、本紙記者3名は課題研究の外来種調査の北山麗良さん(2-5)とともに、本校近くの「松陽台ふれあい公園ビオトープ」に出かけ、創刊号に続き調査活動を行った。今回の目的は「指標生物」だ。前回調査では、アメリカザリガニ(条件付特定外来生物)や、メダカによく似たカダヤシ(特定外来生物)等を数多く捕獲。現在わが国で問題になっている「特定外来生物」の生息を確認した。今回は、水質の状況を示す「指標生物」(環境省指定の約29種)の視点から調査した。すると、アメリカザリガニが支配するビオトープのいびつな生態系の実態が明らかになった。

## 残暑で水質悪化

前回6月に実施した調査では、ビオトープの水質も多く、水も澄んでいて、条件付特定外来種であるアメリカザリガニの他にもカワナ等の固有種も確認でき、ビオトープの一定の生物多様性が確認できた。



小型のアメリカザリガニ

しかし今回は、残暑が続いた影響か、ビオトープの水量が減り水も濁っていた。泥臭い匂いが漂う中、覚悟を決めた女子4名は、秋晴れのもと2時間あまり、黙々とすくい網で採集活動を展開。泥の中から生物が捕獲されるたびに歓声(悲鳴)をあげながらの活動となった。

## アメリカザリガニが支配する生態系

すくい網で岸付近をすくうと大きいものでも全長5センチほどの小さなアメリカザリガニが大量に捕獲された。その数は60匹に登った。アメリカザリガニは、水質階級IV(とても汚い水)の指標生物だ。一方で、本来は多くの存在するはずのミナミヌマエビはたったの1匹しか捕獲されず、他には、ヤゴ(トンボの幼虫)2匹、ミズスマシ1匹、カワナ2匹のみ。

## 池の中心で 君臨する外来種

調査に同行してくださった、本校の理科教諭、小川聖太郎先生と池田大悟先生によると、「今回は水際でザリガニの小さな個体ばかり採集されたが、大きな個体は池の中心部で生息していると考えられる」と分析された。生まれて間もない小さなザリガニが多数水辺



小型でもハサミで威嚇するアメリカザリガニ



〔堂園結衣〕

## 「松陽スピリット」コンクール第2席

第72回学校新聞コンクール(南日本新聞社主催)高校の部において、新聞同好会の「松陽スピリット」が初めての応募で、第2席

(2位)に輝いた。本校が応募した新聞は、新入生歓迎号、創刊号。審査総評では「校内の話題を中心にユー

モアあふれる記事が印象的だった」と述べられた。1席は大島高校、3席は甲南高校だった。今後とも、松

陽高校の魅力を発信し、地域との懸け橋になる新聞を作成していきたい。

〔部長・立野美吹〕